

トランプ大統領訪中の評価と台湾、G2

世界が注目した米中首脳会談が終わった。その成果に関して日本では採点が厳しく、米国でも民主党系には「譲歩し過ぎだ」といった批判が多かったが、実際はどうだったのか。そもそも、イランとの戦争を「中断」してまでトランプ大統領を北京に向かわせた背景と情勢認識は何か、首脳会談後、米中関係はどう動いているのだろうか。あれから一カ月半が経ったので、そろそろ振り返ってみる良いタイミングかもしれない。

最近「ホットな」日中関係関連の注目記事も結構収集しているが、やはり米中関係という、日中にとって「バックグラウンド」となる大問題を先に検証したほうが良いだろう。

当事者双方の評価以外に、台湾問題を巡る米中間のやり取りとそのインパクト、G2をめぐる議論も取り上げる。もともと米国内の中国認識の変化や、米国以外の（日本を除く）世界主要国の米中に対する見方の推移などの内容も用意していたのだが、長文になりそうなので今回は割愛して次号でご紹介したい。

一 トランプ訪中に関する双方の評価

訪問直後、ホワイトハウスは以下のトランプ訪中の映像を発表した。

- ① [Bing 影片](https://00m.in/QDMAv) 白宫发布特朗普访华集锦视频 260517 (23 秒) <https://00m.in/QDMAv>

次はトランプ大統領が自らナレーションを吹き込んだ訪中の映像。

- ② [白宫发布特朗普访华回顾视频](#) 260517 (38 秒)

いずれも好意的な伝え方だが、公式の反応より、トランプ大統領の訪中に随行した息子（エリック・トランプ）の嫁ララ・トランプの以下のインタビュー映像が印象的。「10 点満点なら、12 点だった」と語っている。

- ③ [特朗普儿媳谈随团访华：满分 10 分简直可以打 12 分，对美国来说，恐怕再也没有比这更圆满的访问了_哔哩哔哩_bilibili](#) 260516 (32 秒)

(<https://www.youtube.com/shorts/rkPKAG4xGX4>)

物好きが公表したトランプ大統領の歓迎宴会のメニューは右の写真。

中国政府側の評価は、後の王毅外相の記者会見の内容に詳しくまとめられている（抜粋は省略）。

- ④ [王毅向媒体介绍中美元首会晤情况和共识 — 中华人民共和国外交部](#) 260515

むしろ、二人の政府に近い著名学者の対談内容が、中国側の認識を知る上でとても参考になる。そのひとりには翟東昇・中国人民大学研究院長、もうひとりには丁一凡・国务院発展研究センター元研究所副所長だ。



⑤ [翟东升：中美实力对比彻底改写，全球秩序迎来大变局。YouTube260705](#)

要旨：1，首脳会談に対する中国の複数の学者の採点：10点中の9点か9.5点以上。

2，トランプ氏は三つのB（牛肉、大豆とボーイング＝それぞれの英語頭文字）の買い物を優先したが、中国側は「戦略的安定」を特に重視した。米側は事実上、中国を負かすことができないと認識したため、今回の訪中で新しい枠組みの構築に同意した。

3，今日の米中関係はかつての米ソ関係とは大きく違う。何よりも総合的国力が接近している。

ほかに、円安問題の国際背景と趨勢についても面白い分析がある（映像の22分以降）が、省略する。

訪中の合意内容について、米商務省の発表は以下の通り。

⑥ [事实简报：唐纳德・特朗普总统与中国达成历史性协议，惠及美国工人、农民及产业](#) 米国北京大使館 260519（英語版は以下）

<https://www.whitehouse.gov/fact-sheets/2026/05/fact-sheet-president-donald-j-trump-secures-historic-deals-with-china-delivering-for-american-workers-farmers-and-industry/>

そのうち、経済貿易面では、中国によるレアアース他重要鉱物の制限緩和、ボーイング旅客機の200機購入、26と27年度はそれぞれ米国の農産物を170億ドル以上購入の約束、米国産牛肉や鶏肉の購入の復活といった内容が公表されている。

中国政府側は経済貿易面の交渉結果を公表していないが、12億人以上が使っているSNS、微信（WeChat）で、トランプ訪中と並行してソウルで行われたベッセント米財務長官と何立峰副首相の交渉結果が披露された。当局から否定も肯定もされていないが、およそその通りだろうと見ている。

⑦ 微信で披露された米中経済貿易交渉の合意内容（写真参照）

I. 貿易と関税

1. 関税休戦の直接延長と調整

米国は中国フェンタニルへの10%関税を撤廃、24%の懲罰的関税は更に18ヶ月間停止。

中国は米国農産物に対する10～15%の追加関税を撤廃し、ごく一部の戦略物資のみに10%の関税を維持、他の品目は通常の関税率に戻す。

2. 米中経済貿易委員会および投資審査委員会を設置、摩擦処理や交流促進協議のメカニズムになる。

3. 米国は中国の造船、物流、海事産業に対する通商拡大法301条に基づく調査を18ヶ月間停止する。中国は同時に船舶に対する報復関税を撤廃する。

II. 技術・輸出規制の大幅緩和

1. 米国は市場浸透率50%以上の半導体に対する輸出規制を18ヶ月間停止する（従来は1年間のみ）。中級半導体

5.14 北京中美会谈：已经落地 + 马上出台的实质性政策
两大类：当天直接贴定可执行政策 / 后续1-2个月落地细则、之前共识本次直接延期升级
全部是马上影响企业、进出口、科技、出行的硬政策

一、经贸关税（最直接、最快落地） 1 关税休战直接延长 + 优化 - 美方： - 永久取消对华10%芬太尼关税 24%对华惩罚性关税再延长18个月暂停征收（之前只延1年，本次直接加长） - 中方对应： - 取消对美农产品（大豆、玉米、牛肉、猪肉、小麦）10%~15%加征关税 - 保留小额小范围战略商品10%关税，其余恢复正常税率 2 成立中美常设经贸委员会 + 投资审查委员会 - 以后摩擦走机制协商 - 不再临时加关税，临时301清查 3 美方暂停对华造船、物流、海事301调查18个月 - 中方同步取消船舶反制关税	二、科技与出口管制（重大实质性松绑） 1 美方暂停50%穿透性芯片出口管制规则18个月（之前只停1年） - 中国芯片、设备放开对华正常贸易 2 中方暂停稀土、关键矿产等出口管制18个月 - 正常供应全球 3 双方约定：不随意扩大实体清单、不随意拉黑企业 - 建立企业个案申诉通道 - 一批被制裁中美企业逐步解除限制
三、人文、签证、旅游立刻落地政策 1 互相恢复5年多次商务签证、旅游签证 - 取消之前入境额外审查 2 恢复中美直飞航班增量 6月起每周航班数量翻倍 3 重启留学生、学术交流绿色通道 - 理工科留学生限制放宽	四、执法与全球合作硬性安排 1 中美重启禁毒联合执法机制 - 美方配合芬太尼溯源 - 中方配合管控化学品 2 两军恢复危机沟通热线 - 防止南海、台海军事误判（安全实质性政策）
五、本次会谈特点：区别于以往空谈 1 旧金山峰会是1年短期休战，这次北京会谈直接升级为18个月稳定政策 + 3年战略框架 2 昨天经贸团队已经签署照会执行备忘录，不是口头承诺，两国财政部、商务部直接发文落地 3 所有政策5月下旬—6月上旬陆续正式公告生效	六、暂时没有放开的（底线不变） - 高端AI芯片、先进光刻机、军事相关技术依旧严格管控 - 台湾问题美方只重申一个中国，无额外让步政策

政策落地时间表（执行节奏）

5月14日（当天）	5月下旬	6月上旬	长期目标
✓ 关税休战延长协议确定 ✓ 造船、海事301调查暂停 ✓ 禁贩联系快速机制 ✓ 危机沟通热线恢复	✓ 关税调整细则正式公告 ✓ 农产品关税取消落地 ✓ 签证政策正式生效 ✓ 直飞航班增量公布	✓ 芯片出口管制延期落地 ✓ 稀土出口限制延期公布 ✓ 企业申诉通道正式运行 ✓ 留学生绿色通道全面重启	18个月稳定执行期 + 3年战略框架 推动中美关系稳定、可持续发展

中美合作，互利共赢，稳定预期，促进全球经济复苏与增长！

および関連機器は中国との通常貿易を再開。

2. 中国はレアアース他重要鉱物に対する相互輸出規制を 18 ヶ月間停止、供給を正常化。
3. 一部の中国企業および米国企業に対する制限や制裁を段階的に解除。

III. 人的交流、ビザ、観光関連

1. 五年間有効の複数回入国可能なビジネスビザおよび観光ビザを相互に復活。
2. 二国間の直行便を増便し、6 月から週便数を倍増させる。
3. 留学生と学術交流のグリーンチャンネルを再開、STEM 分野の学生への制限を緩和。

IV. 法執行および国際協力に関する具体的な取り決め

両軍は南シナ海と台湾海峡における軍事的誤算を防ぐため危機対応ホットラインを再開。

V. 今回の会談の特徴：

1. 釜山会談は 1 年間の短期休戦、今回は 18 ヶ月間の安定と 3 年間の戦略的枠組みへ格上げ。
2. 今回は口頭での約束だけでなく、書面による覚書に署名。
3. 一連の合意内容は、5 月下旬から 6 月上旬にかけて逐次に公表され、発効する。

VI. 未開放分野（基本方針変更なし）：ハイエンド AI チップ、先端リソグラフィー装置、軍事関連技術は引き続き厳格な管理下に置かれる。

首脳会談後、共同記者会見も共同声明もなかったから成果薄い、という評論を見かけたが、米中両国の交渉経緯と内外事情を知らない憶測だ。記者会見の形は習近平主席はあまり好まず、トランプ大統領も北京訪問中は慎重な姿勢を貫いたため、それにはこだわらなかった。双方とも相手との合意と公式発表を使い分ける必要があったのだ（米側は同盟国や国内の反対勢力を、中国はロシアや「グローバルサウス」を念頭に）。合意内容の一部は、米側は「米中は朝鮮半島の非核化に合意」と発表（中国側は公表しないが否定せず）、王毅外相は「台湾問題が重要議題」と言明（米側も否定せず）という形を取った。

多くの合意と約束がすぐには公表・実施されなかったもう一つの理由は、トランプ氏は「台湾への武器売却は中国の対応次第」と語ったように、さらに取引材料にしていることである。中国側も 2017 年のトランプ訪中で約束した内容が直後に反故にされたことを教訓に、「気まぐれ」のトランプ対策として「台湾への武器売却が段階的に停止されれば、米中貿易の緩和は継続されるが、武器売却に踏み切れれば、経済と貿易の合意が白紙になる可能性もある」と牽制していると、HK「フェニックステレビ」の元キャスターが解説している。

⑧ [普京访华，中美俄同时进入“摊牌阶段”：未来三年...](#) 260519

米中両国の著名な華人学者のオンライン緊急座談会で示されたいくつかの見方を紹介する。

⑨ [海内外專家：中美步入“競合”共存時代](#) 中評社 260525

1, マカオ地域戦略研究センターの王建偉所長は、トランプ訪中の特徴と意義を「3つの R」で要約：Redefinition（再定義）、Reconfiguration（再構成、戦略的コミュニケーションに重点）、Relaxation

(対話の雰囲気が和やか)。

2, 南京大学国際関係学院の朱鋒院長：米中関係はもはや新たな共同声明は必要なくなり、1972 年以降の 3 つの共同声明による規範的效果も終焉し、実務的な協力と管理競争に集中する新段階に入った。

3, 米シートン・ホール大学の汪錚教授：米中は軍事安全保障と経済・技術分野ではそれぞれ「相互拒否」能力を形成しており、両国が「競争的共存」の時代に正式に移行したことを示す。

4, 台湾の元立法委員で中国文化大学の周陽山教授：訪問の成果を「戦略的安定、経済的優先、台湾海峡の管理」と総括。トランプ大統領による台湾発言、米海軍長官代行による 140 億ドル相当の台湾への武器売却の停止説明は、台湾の与野党双方に大きな衝撃を与え、年末に行われる台湾の地方選挙にも影響を与え、民進党に独立路線の綱領を放棄させる可能性も出てきたと分析。

5, シンガポールの南洋理工大学のミン・チャン・リー研究院副院長：米中関係は「管理された競争的協力関係」へと移行。東南アジアにとって、安定した米中関係は地域の戦略環境と経済的な信頼感に有益で、投資や産業移転の機会をもたらし可能性がある一方、米中間の地政学的・経済的競争の舞台ともなり、立場選択、サプライチェーンのリスク軽減、大国間取引の犠牲となる可能性もある。

6, 米コーネル大学中国・アジア太平洋研究プログラムのシュー・シン主任：8 年間の「摩擦と試行錯誤」を経て、米中関係は単なる「安定化」ではなく、現実と向き合い、競争を管理するというパラダイムシフトをしている。共同声明が発表されなかったのは、互いの核心的な懸念を尊重し、デリケートな問題への対応の余地を残している証拠だ。台湾問題をめぐるやり取りから、それに関する戦略的優位性は中国へと移行しつつある。

7, 米クリストファー・ニューポート大学の孫太一准教授：訪中の成果を段階的に発表することは、米国内で複数の「ニュースサイクル」を生み出す上で有利、9 月の習主席の訪米を公表したことは対中強硬派や、官僚機構を制度的に制約する狙いもある。

「建設的な戦略安定」という米中関係の新しい位置づけの形成と脚色過程だが、ルビオ国務長官が去年に続き、今年 2 月 26 日の記者会見で「米中関係は少なくともある種の戦略的安定の状態に達したと考えている」と語ったのがきっかけのようだ。

⑩ [魯比奥：美中关系已達到“戰略穩定狀態”](#) 参考消息 260228

続いて、トランプ訪中に向けて、「戦略安定」を目指す方向で双方の外交当局の協議で集約され、「建設的」という表現は中国側から付け加えられた模様。「戦略安定」を重視するので、その中身について習近平主席は首脳会談で四つの肉付けを行った。

⑪ [习近平同美国总统特朗普会谈 — 中华人民共和国外交部](#) 260514

引用：「トランプ大統領と私は、『建設的な戦略安定の関係』の構築が、米中関係の新たな位置づけであるという点で意見が一致。これは今後 3 年間ないしもっと長い期間の米中関係に戦略的な指針を与えるものであり、両国国民と国際社会から歓迎されると確信する。それは、協力に基づく積極的な安定、適度な競争を伴う穏やかな安定、相違が管理可能な常態的安定、そして平和を目指す持続的な安定を意味する。単なるスローガンではなく、互いに歩み寄っていくプロセスであるべき」

ただ、中国に主導権を取られたくない思惑もあり、事後の米國務省発表では「公平で対等な」という修飾語がさらに付け加えられた。前出⑤の対談で、中国側学者は「トランプ大統領側はおそらく内心、中国との対等関係に抵抗があり、『建設的な戦略安定関係』の合意の前に、『公平で対等な』を足して、競争では負けたくない気持ちを表した」と解説している。

二次的レベルでの駆け引きは依然続いているが、双方とも首脳会談の合意内容を慎重に守ろうとしている姿勢が見える。7月に入って、首脳会談で合意した北京のザイオン教会のエズラ・ジン牧師が釈放され、ロサンゼルスに到着。

⑫ [金明日牧师美国独立日获释抵达美国，家人“感谢特朗普总统及其政府展现出的卓越领导力”](#) VOA260705

トランプ大統領は中国へ出発する前、北京で習近平主席に対し、エズラ・ジン氏の件を取り上げる意向を表明。米国への帰国機内では、習主席が牧師の釈放を検討していると記者団に語った。

牧師の家族は声明を発表し、「トランプ大統領とその政権が示した卓越したリーダーシップに感謝する」と共に、「習近平主席の直接的な介入がなければ、実現しなかっただろう」と記した。

中国の米中問題専門家で復旦大学の呉心伯教授は、首脳会談後一か月余りの経過を検証。

⑬ [对话吴心伯：美方打一拳，中方必回击！两国稳定靠新互动模式](#) 观察网 260706

要旨：1、双方とも首脳会談の合意の実施に取り組んでおり、関係の安定を保っている。二つの政府間協議メカニズム（経済貿易委員会と投資審査委員会）の設置が進行中。フェンタニル問題をめぐる協力も良好に推移。海上軍事安全保障協議を含む両国軍間の接触もいくつかあった。今後の数ヶ月間、両国間のインタラクション（双方向の交流）はさらに頻繁になり、進展が期待できる。

2、台湾への武器売却をトランプ政権は停止中。「停止」や「キャンセル」とは言わず、単に「棚上げ」とした。イランとの戦争で弾薬が不足し、備蓄を補充する必要がある、という妥当な理由を挙げている。中国としては、理由が何であれ、台湾に武器を売却しない限り問題ない。先日、王毅外相はルビオ国務長官と会談し、台湾問題は極めて重要な問題で、越えてはならない一線であると明確に伝えた。一線を越えたと判断すれば、迅速かつ強力に報復する。トランプ氏自身は、台湾問題は米国にとってそれほど重要ではなく、それを交渉材料として利用する傾向がある。本当に関心を寄せるのはハイエンド半導体製造だ。台湾問題でバッシングしない限り、他の分野の米中協力や連携は可能。

3、昨年からはまった交渉の応酬で、取引は厳密に対等、こっちが譲歩すれば、相手も必ず見返りをしなければならないという新たなモデルが出現し、新たな常態となる可能性が高い。9月の中国首脳の訪米は、さらなる進展と成果をもたらし、戦略的安定の建設的な勢いはより強くなるだろう。

4、11月の中間選挙は結果がどうであれ、米中関係の現状は大きな影響を受けないはずだ。2028年の両選挙は極めて重要。1月の台湾トップ選挙と11月の米国大統領選挙。後者では、民主・共和両党の候補者とも中国問題を争点に挙げることが予想される。それが米国の対中政策の議題や雰囲気に影響を及ぼすだろう。

中国は、トランプ政権が「ビッグディール」を好むスタイルを逆手にとって、「取引は厳密に対等、こっちが譲歩すれば、相手も必ず見返りを」としている特徴が留意されるべきだ。

毎年5月、シンガポールで開かれるアジア安全保障会議（シャングリラ会合）は米中の舌戦の場になるが、トランプ訪中後のヘグセス国防長官のスピーチに変化。中国側の評論記事は以下の通り。

⑭ [信号接连释放 中美朝着建设性战略稳定关系迈步前行](#) 260530

要旨：1、北京での首脳会談からシャングリラ対話での発言、ホワイトハウスによる台湾との電話会談の中止の明確な発表に至るまで、一連のシグナルは、米中関係が原則的な合意から政策実施へと移行し、「建設的な戦略的安定」が現実へと変化していることを示す。

2、シャングリラ対話でヘグセス国防長官は基調講演で、トランプ政権が中国との「安定した平和的、公正な貿易、相互尊重」に基づく関係構築を目指していることを改めて表明し、現在の両国関係は「ここ数年で最も良好」と述べた。

3、彼は対中戦略を「棍棒を携え、穏やかに語る」と要約し、米軍が外交を力強く支援しつつ、中国との接触頻度を高め、「力強く、静かに、そして明確に」という方式で相違点を管理し、地域平和を維持していくと約束した。これこそ競争的共存の新常態で、「建設的戦略安定の関係」の本質に符合する。競争をやめるのではなく、それに境界線、ルール、レッドラインを設け、「闘えど破れず」と協力の並行を意味する。

4、シャングリラの演説で台湾について一切言及されなかったことは、緊張緩和の兆候。

もう一つはシャングリラ会議の現場に出た中国側代表の分析も読む価値あり（解説は省略）。

⑮ [周波：4次提到“六字箴言”，只字未提台湾，美国在释放什么信号？](#) 观察者 260601

ほかに、ヘグセス長官が人民解放軍代表の質問に対する回答が中国で伝えられている。

⑯ [美防長再確認中美建設性戰略穩定關係](#) 260530 中評社

引用：「両国間には相互尊重があり、互いの能力と強みを認め合い、今日の国際社会において米国と中国が最も効果的に協力できる方法を理解していると私は信じている。この相互信頼は真に存在し実質的なもので、地域と世界の平和の歴史にとって深遠なる意味を持つと確信する。」

反中的とのレッテルがあったルビオ国務長官も訪中後、「君子豹変」したとされ、その背景と原因についてNYタイムズとドイツ放送の両方の記事が解説している。

⑰ [Rubio, Once a China Hawk, Strikes Softer Tone to Align With Trump](#) （[曾经的对华鹰派 鲁比奥为何软化对中国的态度](#)）[纽约时报中文网](#) 260518

⑱ [美中关系仍有“摩擦因素” 卢比奥：别无选择须对话](#) DW260603

二 トランプ氏の台湾発言とそのこだま

台湾問題は、中国側は首脳会談の中で「重点中の重点」と位置付けた。ルビオ国務長官はトランプ訪中前後、台湾政策に変化なしと再三話し、首脳会談での「台湾議論」も公表されなかった。トランプ大統領が帰国の途に就くと、すぐ二つのインタビューを受けて長く語った。

一つは専用機内で米記者団に対して語った内容（抜粋）。

① [【全程字幕】川普鬆口證實習川會有談"台灣議題"! - YouTube](#)260516

- President Xi and I talked a lot about Taiwan. We talked about Taiwan, we talked about Iran a lot. I think we have a very good understanding on both. (習近平主席とは台湾についてたくさん話し合った。台湾とイラン、どちらの問題についても、非常に良い相互理解が得られた)
- (1982年にレーガン大統領は、台湾への武器売却について中国と協議しないと約束したと聞かれ) Well, 1982 is a long way away. That's a big far distance away. (1982年はとっくの昔のことだ。本当に昔のことだ)
- you know I think the last thing we need right now is a war. That's 9,500 miles away. That's the last thing we need. (今私たちが最も必要としていないのは戦争だ。9500マイルも離れた場所での戦争は、私たちが最も望まないことだ)

もう一つは FOX ニュースのインタビュー内容。

② [川普福斯專訪談台獨、對台軍售 中英文逐字稿一次看 聯合新聞網](#) 260516

- that's a risky thing, when you go independent, you know, they are going independent because they want to get into a war and they figured they have the United States behind them. (独立するのは危険なことだ。彼らは戦争を起こしたいから独立しようとしているし、アメリカが後ろ盾になってくれると考えている)
- I'm not looking to have somebody go independent and we're supposed to travel 9,500 miles to fight a war. I'm not looking for that. (誰かが独立して、9500マイルも離れた場所まで私は戦争に行くなんて望まない。そんなことは望んでいない)
- It depends on China. It is a very good negotiating chip for us, frankly. It's a lot of weapons. It's \$12 billion. It's a lot of weapons. But, you know, when you look at the odds, China is very, very powerful, big country. That's a very small island. Think of it, it's 59 miles away. 59 miles. We're 9500 miles away. (台湾への武器売却と聞かれて、中国次第だ。率直に言ってそれは我々にとって非常に良い交渉材料だ。120億ドルという膨大な量の武器だ。しかし中国は非常に強力な大国。あそこは非常に小さな島。59マイルしか離れていない。我々は9500マイル離れている)

トランプ大統領はなぜ帰国の「エアフォース1」に乗ってから台湾問題を初めて公に語ったのか。上述の①インタビューの中で「1982年にレーガン大統領は、台湾への武器売却について中国と協議しないと約束した」と受けた質問と関連する。中国に対しては経済貿易との「ビッグディール」のためにも協議しないといけないが、米国内向けには「レーガン大統領の話はとっくの昔」と言いつつ、(中国との

交渉で譲歩したわけではないと）辻褄を合わせる必要があった。だから会談直後、「米領土内」を意味する「エアフォース1」で、という事前に選定したタイミングで語ったと見られる。

トランプ氏の二つの発言は台湾海峡兩岸では、米国の台湾政策の「四つのノー」と総括されている。

③ [特朗普涉台“四不”示警“台独” 凤凰网](#) 260518

要旨：1、「四つのノー」とは(1)米国は「台湾独立」を支持しない、(2)「台独」のために戦うつもりはない、(3)「台独」の後ろ盾となるつもりもない、(4)台湾への武器売却に安易に同意することはない。

2、厦門大学台湾研究所の張文生副所長は、トランプ発言は、3つの明確なメッセージを伝えたと分析：(1)民進党当局は「台独」路線で米国から無制限の容認を得られない、(2)「台独」に対する米国の立場はますます明確に、(3)米国は独立勢力のために自国利益を危険にさらして遠い海を渡ることはない。

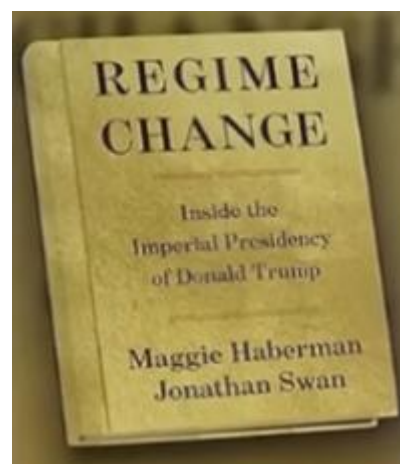
台湾「中国時報」の社説はトランプ発言を新しい「三つの約束」とまとめた。

④ [中時社論》川習會後台海新形勢系列三：廢台獨黨綱 520 賴總統的契機](#) 260518

要約：台湾は独立を求めないことを約束し、見返りとして北京は台湾人民の意思を尊重した平和的統一を推進。北京は武力行使しないことを約束する。米国は台湾海峡の現状を維持し、兩岸の戦争を扇動したり関与したりする意図はないことを約束する。

6月末に米国で出版されたホワイトハウス駐在記者たちの暴露本の中でも、トランプ大統領はスプーンを手にとって「米軍をあの小さな島のために戦争することはない」と語ったことを披露。

⑤ [私下拿湯匙指台灣 紐時新書揭川普真心話：何必派美軍為小島開戰](#) 260705 [世界新聞網](#)



台湾への軍事介入に躊躇したのはトランプ氏一人の考えではない。

⑥ [美專家：中國太強台海太遠 美軍勝不了](#) 260620

米シンクタンクのクインシー研究所で6月17日に開かれた「イラン戦争における軍事的抑止力の教訓」と題したオンラインセミナーで、出席した3人の米国専門家は全員、米軍の台湾海峡参戦が勝利する可能性に否定的な見解を示した。同研究所の研究員 Brandon Carr氏は、イラン戦争から得られる明確な教訓は、冷戦終結後の30年間、競争相手がいない中で発展してきた米国の戦争モデルが根本的に時代遅れになったと指摘。

米海軍力は台湾方面では中国に勝てないと分析したヘリテージ財団の報告書を紹介した記事：

⑦ [第3次台湾海峡危機から30年 様変わりした米中の力関係 | 毎日新聞](#) 260521

「中国を抑止するのに海軍のこれ以上の弱体化は許されない」。厳しい指摘をしたのは米国の保守系シンクタンク「ヘリテージ財団」が今春出した報告書「2026年 米軍の軍事力指標」だ。報告書は陸・海・空軍や海兵隊などの戦力について「二つの主要な地域紛争への対処」等を想定し、「極めて強い」

「強い」「ぎりぎり」「弱い」「極めて弱い」の5段階で評価。米海軍の戦力の総合評価は「弱い」だった。

トランプ氏の台湾発言による台湾内部への衝撃が大きく、5月後半に行われた世論調査では、独立賛成は21%で前年比4%減、兩岸の軍事衝突に米国は出兵せずと見る人は42.9%と上がっている。

⑧ [聯合報民調 / 統獨爭議 破6成民眾盼永遠維持現狀創新高 聯合新聞網](#) 260601

その一か月前、鄭麗文・国民党主席の大陸訪問を受けて民主文教基金会在4月23日に公表した世論調査では、「最も保障ある制度的条件」を自ら出して兩岸関係をめぐる談判に応じるべきと答える人は61.5%、米国が無条件で台湾を守るために派兵することを信じないと答える人は57%に上った。

⑨ [TVBS 民調》鄭麗文表現好嗎？鄭習會最新民調曝光 66%台灣人盼兩岸重啟協商](#) 260424

国民党系学者張亞中氏は、米中首脳会談の暗黙の了解で「四種類の台独」の道は閉ざされたと指摘。

⑩ [張亞中專欄》四種「獨」已死 台灣該找出路了 -中国時報](#) 260531

四種類とは、(1)顕性台独（民進党の綱領に示される公式独立の主張）、(2)隠性台独（民進党の1999年「台湾前途決議文」や中華民国に代えて「中華民国台湾」を使用）、(3)顕性独台（「中華民国」=台湾、独立宣言の必要なし）、(4)隠性独台（「一つの中国」は中華民国とし、現状維持、統一なしの考え）。

米 Illinois Chicago 大学の汪志雄教授の寄稿は、トランプ訪中後の台湾で現れた兩岸関係に関する立場の変化の動向を注目した。

⑪ [汪志雄專欄》從正名制憲到台人治台：獨派的縮水與變現 -](#)260528

最近の台湾の政治版図に、兩岸関係における二つの注目すべき変化が見られた。一つは、長年独立を主張してきた「喜樂島聯盟」が、一定の条件の下で独立支持の立場を調整する用意があると公に表明したこと。二つ目は、頼清徳政権の台湾主権に関する言説にも微妙な変化が見られたこと。両者が絡み合い、国際地政学の文脈における台湾の複雑な現状を形作っている。

独立派の「喜樂島聯盟」の代表が習近平主席宛に送った公開書簡を解説した主要紙の社説。

⑫ [中時社論》喜樂島的公開信 獨派的焦慮 -](#)260601

三 G2 をめぐる議論

トランプ大統領は今年に入って、中国との「G2」を少なくとも2回以上語っている。訪中直前は米中両国を「超大国」と呼んだ。

① [特朗普开启访华之行：称美中是超级大国](#) 260513

中国のオピニオンリーダーの一人、HK 大学深圳学院の鄭永年院長は、今回の首脳会談を通じて米中両国は事実上の「G2」体制を形成していると見る。

② [郑永年：中美关系可能会进入一个全新阶段](#) 260517

なお、かつて日本に留学した鄭氏は同インタビューで、「日本は外交方針を全面的に調整し、米国に中国を標的にするよう仕向けようとしており、『東アジアのイスラエル』になっている」ことへの警戒を提起し、話題を呼んだ。

一方、中国の元駐日、駐米大使の崔天凱氏はシャングリラ会議で G2 を受け入れないと発言。

③ [中国指導部、トランプ氏の「G2」構想は受け入れずー元駐米大使 - Bloomberg](#)260530

発言要旨：「世界は 1 カ国や 2 カ国によって運営されるべきではない」。(米中首脳会談で提唱された「建設的な戦略的安定」の枠組みについては)「スローガンではなく、両国が協力して具体的な行動を取るべきことを意味する」。

日本の中では、中国が先に米側に G2 を持ちかけたとの説があるが、間違いだ。Wikipedia の中国語バージョンの G2 項目は次のように紹介している。

④ [兩國集團 - 維基百科，自由的百科全書](#)

引用：Group of Two（略称 G2）とは、フレッド・バーグステンによって初めて提唱されたコンセプトで、オバマ政権発足後、このコンセプトを米中関係の中心として、外交政策専門家の間でより広く研究され、受け入れられた。著名な提唱者には、ブレジンスキー元米国家安全保障担当補佐官、ロバート・ゼーリック元米国務副長官、林毅夫元世界銀行チーフエコノミスト、イギリスの歴史家ニール・ファーガソンなどがいる。

中国では 25 年 11 月に、筆者の母校、華東師範大学で開かれた国際シンポジウムで、党中央對外連絡部の元副部長周力氏が当事者の一人として次のようにその歴史を振り返った。

⑤ [我们不能接受“G2”世界](#) 251224

要旨：1、「G2」の概念の起源は、2008 年に米経済学者フレッド・バーグステンが提唱した「G2」構想にある。09 年、オバマ大統領は就任後、「G2」構想を米中関係の中核として推進しようと試み、両国が世界における「G2」の構築に努めるべきだと中国に正式に提案した。

2、2009 年 11 月 18 日、訪中したオバマ大統領に対し、中国指導者（胡錦濤主席のこと、作者注）は米側が提案した「G2」構想に対し、以下の公式回答を行った。中国は米中関係を非常に重視しており、安定した協力関係に基づく前向きな米中関係は、両国だけでなく世界にとっても有益である。ただ「G2」構想を支持できない。主な理由は以下の 3 点。第一、中国は人口の多い発展途上国で、現代化した国家となるにはまだ長い道のりがある。第二、中国は独立自主の平和外交政策を追求し、いかなる国や国家グループとも同盟を結ばない。第三、世界のことは一つや二つの国ではなく、すべての国が共同で決定すべき。同時に、我々は米中協力が新たな国際政治・経済秩序の促進と世界平和、安定、繁栄への貢献において、独特な役割を果たすことができると確信している。

3、トランプ政権の 2 期目に入って、中国の一部の学者は、将来の国際関係は米中「二極世界」が支

配し、その他すべてが「広大な中間地帯」になると提唱し、「G2」モデルに賛同している。しかし米中関係と米露関係が不安定で激しく争われている今、「二極世界秩序」に熱心であることは、大小すべての国の平等、相互尊重、共同協議、利益共有の原則という長年の外交スタンスを放棄することを意味し、中露関係やグローバルサウスとの関係を危うくすることになる。

以上の文脈で見ると、中国政府は公式に、**Group of Two** を意味する G2 を受け入れることは今後もありえない。ただ、米中関係が安定し、協力して世界により大きな貢献をすること自体、中国も望んでいる。以下の前出（米シートン・ホール大学）汪錚教授の 5 月末のフォーリン・アフェアーズのサイトに掲載された、新しい G2 を検証した論文が注目されている。

- ⑥ [The G-2 Reality: America and China Cannot Dominate or Exclude Each Other](#)
260526 （有料サイトなので、以下のサイトで中国語の全文を読める）

- ⑦ [CCCW 学者汪铮在《外交事务》发文谈“G-2”现实](#) 260527

要旨：1、今回の米中サミットのより深い意義は、ワシントンと北京は、どちらの側も相手を屈服させることはできないという基本的な現実を認識し始めた点にある。

2、これは、両超大国が和解することや、「関与」(engagement)を中心とした政策の時代に戻ることを意味しない。新たな「G2 世界」の始まりを意味する。米中とも、互いに制限、制裁、妨害はできるが、相手を抑えたり排除したりすることはできなくなる。米国は依然として世界的な軍事大国だが、中国は今や西太平洋における米国の軍事力投射を制限する能力を有している。互いの経済に大きな打撃を与えることはできるが、どちらも相手が主要な経済・技術大国であり続けることを阻止はできない。

3、北京サミットは、昨年トランプ大統領が韓国で言及した「G2」構想が、レトリックから現実へと変化しつつあることを示す。新しい「G2 世界」において、共同で世界を統治するのではなく、「競争的共存」という構造的な関係で結びついている。相手に打ち勝つ試みが幾度となく失敗に終わった今、ワシントンと北京の間には、より安定した建設的な競争関係を築くための条件が整ったと言える。

トランプ大統領の訪中前日、5 月 12 日の人民日報に掲載された「鐘声」名義（社説に次ぐ重み）の論評は米中両大国の国際責任を強調した。

- ⑧ [以大历史观把握中美关系发展方向（钟声）——人民网](#) 260512

要旨：○将来を見据えると、米中が適切な共存の道を見出せるかどうかは、人類の未来と運命に深く影響を与える。歴史的視点から見ると、米中協力の国際社会における重要性はますます増しており、国際社会はこれまで以上に戦略的で建設的かつ安定した米中関係を必要としている。

○世界最大の二つの経済大国である米中は、世界経済規模の 3 分の 1 以上、世界のモノの貿易の約 5 分の 1 を占めており、米中関係は、両国経済と世界経済のいずれにも重要な影響を持つ。

○人類が直面する共通の課題に対処するには、二大強国の協調的な努力と行動が必要。大国間の競争は、現代を特徴づけるものであってはならず、団結と協力によってのみ、共に困難を克服できる。両国は、地域開発の促進と世界経済ガバナンスの向上という重要な使命を担っており、米中協力は、国際社

会における我々の責務を果たすため、そして全人類の共通の幸福のために不可欠である。NY タイムズ紙のコラムニスト、フリードマンが書いたように、「我々の運命は今や深く結びついている」。

FT 紙の中国語サイトに、中国人コラムニストの「米中 G2」を論じる記事が掲載された。

⑨ [中美 G2 時代呼之欲出？ - FT 中文網](#) 260527

原文：トランプ大統領の 9 年ぶりの中国再訪は非常に重要なシンボリックな意味を持つ。米中関係は建設的な戦略安定関係の特徴とする新段階に入り、過去数年間の悪化傾向にストップがかかる可能性が大きい。同時に、「二大超大国と複数の強国」という世界的な構図を予兆し、米中 G2 (Group of Two) の時代が間近に迫っているように見える。

NY タイムズ紙にも、「トランプ氏は中国を対等な超大国と見なす方向へ政策変更」との記事が掲載。

⑩ [Trump's Sharp Turn on China: Embracing It as a Peer Power \(特朗普对华政策转向：视中国为平等的超级大国\) - 纽约时报中文网](#) 260610

習主席はトランプ大統領との会談で、「世界は新たな岐路に立たされており、米中は『トゥキディデスの罠』を乗り越え、大国関係の新しいパラダイムを構築できるだろうか」と語った。その発言は、米国と平和的に共存できる『責任ある大国』として印象づけるためと、NY タイムズ紙が解説。

⑪ [Xi Warned of the 'Thucydides Trap.' What Is It? \(习近平多次提及“修昔底德陷阱”，它是什么意思？\) - 纽约时报中文网](#) 260521

ドイツのボン国際紛争研究センターの米中関係専門家 Ryan Swan 氏の分析：「習近平主席がこの概念を繰り返し言及しているのは、中国を米国と平和的に共存できる『責任ある大国』として印象づけるための、より広範な外交努力の一環」「中国はトゥキディデスの罠を、西側諸国で時折用いられる予測モデルとは見なさず、むしろ回避可能な脅威と捉えている」。

以下の台湾紙掲載の記事は、中国は G2 を定義し直していると分析している。中国指導部の思考様式を理解するのにとても示唆的な見解。自分も読んですこぶる納得した。

⑫ [重新定義 G2：北京正在改寫「大國」的涵義 \(李蕾\)](#) 中国時報 260527

要旨：○盛大な歓迎式典、天壇と中南海でのセット、そして「トゥキディデスの罠」の回避という新たな言及から、北京の意図は、単に米中競争のあり方ではなく、より深い問い、すなわち将来の「大国」とは真にどのような姿であるべきかという問いに向けられているのかもしれない。

○トランプ大統領は過去に G2 について繰り返し言及してきた。その文脈には、G はグループ、つまり世界秩序に共同で影響力を行使できる二つの大国を意味する。過去において中国は「G2」構想に抑制的な姿勢を保ってきた。米国に対抗する新たな超大国と時期尚早に見なされるよりも、西側主導の国際秩序に統合されることを望んでいた。しかし今日の中国は自らを国際秩序の受益者であるだけでなく、その秩序の形成に参画する資格のある大国と自認している。

○変化は、まず科学技術革新に表れている。北京が真に目指しているのは、未来の技術と産業のルールを定める力である。(中略)第二、発展モデルに関して中国は、西側型の自由市場経済を完全に受け入れたわけでも、伝統的な計画経済に回帰したわけでもなく、両者の中間を独自に切り開いている。

○さらに注目すべきは、「大国」概念の再解釈だ。近年、北京は「大国の責任」を繰り返し強調。ここでいう「大国」とは、より文明的な意味合いを持つ。単なる力ではなく秩序、単なる競争ではなく責任、単なる短期的な利益ではなく長期的な安定を意味する。トランプ氏を天壇に招いたのも、中国の台頭は、新たな覇権争いの始まりではなく、文明秩序の継続として理解されたいためだ。こうした理由から、習近平の「中華民族の偉大な復興」とトランプの「MAGA」は、本質的に矛盾するものではない。

○北京は G2 の「G」を、Group (集団) から Great (偉大) に再解釈を図っている。北京が真に求めるのは、もはや国力だけではなく、「大国/偉大」の定義を自ら定める権利だ。この新たな定義は必ずしも西側から発せられる必要はないということを、世界は受け入れる準備ができているのだろうか。

トランプ大統領の訪中直後、プーチン大統領も北京を訪れた。年末の深圳 APEC か、フロリダ G20 に、この三人が顔を合わせ、会合するかもしれない。台湾紙のコラムニストは「新三国時代」「米中ロ共同ガバナンス」の可能性を展望している。

⑬ [張威翔「新三國時代」成形？ 美中俄共治下的世界格局 -260524 中時新聞網](#)

要旨：○現代の地政学は、従来の理解を覆すような深刻な激変期を迎えている。一見矛盾する国際情勢は、表面的な激しい対立の裏で、三大国がイデオロギーを超越した新たな常態を確立し、世界を現実主義主導の秩序へと導こうとしていることを明らかにした。

○この予測不可能な新たな状況において、世界で最も破壊力の高い3つの核保有国の戦略的焦点は、かつてないほど意識的に収束しつつあり、長期的な計算は一種の構造的補完関係に達しつつあるように見える。もはや敵対関係を装わない主要国間の暗黙の了解は、冷戦の確立された枠組みに直接的に挑戦するものであり、メジャーパワー間の駆け引きはもはや単なる生死をかけた闘争ではなく、高度に知的な新たな戦略的規範へと進化中と示している。

トランプの訪中直前、NY タイムズの著名コラムニスト、フリードマンは「AI は米中を結ぶ共通の敵になる」との論評を出した。AI 分野では世界を断トツにリードする米中両国は、未来を制する技術分野で新たなパートナー関係を形成するかもしれないと予測した。実際に首脳会談で、AI をめぐる協力が議題に含まれ、合意された。

⑭ [The U.S. and China Have a Common Foe. Hint: It's Not the U.S.S.R. \(中美共同的敌人\) - 纽约时报中文网](#) 260506

○マイクロソフトの元研究戦略責任者で、AI 研究における個人のメンター兼パートナーである Craig Mundie 氏は、今日の米中がかつての核兵器の論理と全く同じく、相互確証破壊シナリオを再現している。その上で米中の企業は AI 領域で圧倒的にリードしているため、「両国は自国を守り、技術が漏洩し

て他国に被害を与えることを防ぐため、その拡散を抑制し、防御体制を構築する上で主導権を握らなければならない」「これは両国間の協力の強力な推進力となるはずだ」と指摘。

○ニクソンと毛沢東の時代には、ソ連という共通の敵がいたからこそ米中が協力できた。今日、我々は特定の国ではなく、一つの技術、すなわち AI システムによる非対称サイバー脅威という新たなリスクという、別の共通の問題に直面している。

○ワシントン、北京、モスクワの多くの指導者はまだ十分に理解していないが、人類の歴史は初めて全く新しい局面に入った。我々ホモ・サピエンスは、繁栄を達成するために、地球規模で統治し、革新・協力・共存しなければならない。複雑で適応性の高い協力関係を築くか、さもなくば共に滅びるかのどちらかだ。我々の運命は今、一つに結びついている。Our fates are now fused.

ちなみに、かつて「歴史の終わり」を断言したフランシス・フクヤマ氏は4月17日のブログ番組「Making Sense」の対談で、米国の内部分裂と中国の台頭により、自分のかつての断言は間違っている部分もあると認めている。

⑮ [フランシス・フクヤマ：歴史の終わりはあなたが考えているようなものではなかった - YouTube](#)2604

同氏はトランプ政権2期目の弊害、アメリカ民主主義の崩壊、イラン戦争、イスラエルと反ユダヤ主義など、多岐にわたるテーマについて議論し、映像中の4分から6分までの間、「中国は非常に優れたシステムを構築、新技術の活用に長け、かつては不可能と思われていた多くのことを実現する能力を持っている。対照的に、アメリカの民主主義は崩壊しつつある」「中国がこの勢いを維持できれば、確かに有力な代替案になる可能性はある」と発言。

同対談内容を文字で伝えたのは以下の記事。

⑯ [知名学者福山发声：中国模式非常了不起，美国民主分崩离析](#) 260430

米中関係についてまずは以上の解説でいったん終わる。近いうちに、その続編（米中を見る世界の目の変化、米国内のエリート層から民衆に至るまでの中国観の変化など）をお送りします。どうぞ楽しみに。（了）